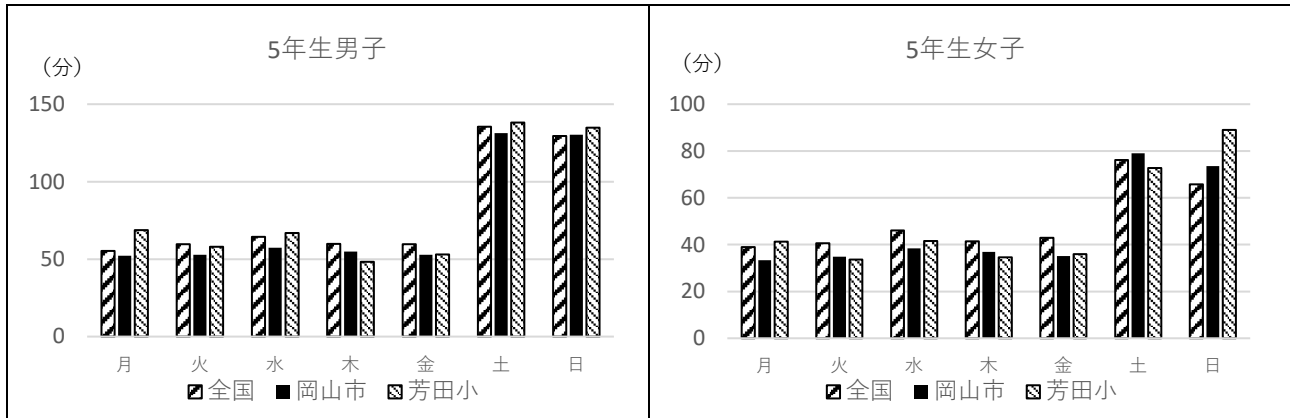


児童が運動に親しむ 芳田っ子 スポーツ ホーム

学校名	芳田小学校		校長名	青野 浩之	
児童数	496名	学級数	20学級	教職員数	54名

< 体育の授業以外の運動やスポーツの時間（曜日別） >  
 （令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から）



### 1 児童生徒の実態

**課題1：運動習慣に関すること**  
 ○運動する子とそうでない子の二極化  
 ○週3日以上運動している児童の減少  
 ○遊び方が固定化される傾向があり、多様な動きの経験が不十分  
 →週あたりでは60分以上の運動をしても、運動が習慣化された状況とは言い難い。

**課題2：体力に関すること**  
 ○「握力」「ボール投げ」の能力の顕著な低下  
 ○体格が小さく、肥満傾向の児童の割合が増加  
 →外での遊び方と体力との相関性は高い。

### 2 取組の概要

○～無理なく・楽しく・自分から～「運動だんごカード」の配布  
 家庭で取り組むことができ、1～5分程度で行うことができる運動を8種類載せた「運動だんごカード」というがんばりカードを配布する。



カードは1週間ごとに新しいものを配布し、子どもの意欲の向上や多様な動きを経験することができるようにする。  
 取り組む期間は冬休みから2月中旬までの間に6週間分行う。



昨年度の課題の中から、「様々な運動の実践」、「家庭との連携」を目指して、2つのことに取り組みます

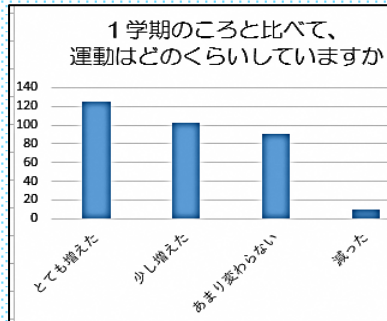


○～芳田っ子の体力は？～「芳田っ子運動だより」の配布  
 「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」のデータや運動や体力についてのコラム、「運動だんご」の取組方法などを掲載した手紙を配布し、保護者にも児童の体力等に興味を持ってもらうようにする。

☆「運動だんごカード」

\*楽しく負担感なく取り組む姿

「運動だんご」は、はじめの段階では全員で実施してみて、徐々にやってみたい人が取り組んでいってもよいという形にした。簡単な動きで、また、ひとつの運動が5分程度の短い時間でできるということに加え、毎週バリエーションを変えたカードを配布していたこともあり、強制的な働きかけをせずとも、興味をもって取り組んだ児童が多かったようである。



\*運動時間の増加

取組が終わった後に児童アンケートをしたところ、1学期に比べて放課後の運動日数が増えたという回答がどの学年でも多い結果になった。高学年になると塾などで運動時間が確保しづらい児童も増えるが、運動だんごを活用してある程度の運動を行うことができたと思われる。

また、運動を通して、他者との関わりが増えたことにより、学校生活においても運動場で友達と遊ぶ児童も増えるなど、家庭だけでなく休み時間の児童の姿も変容しつつある。

☆「芳田っ子運動だより」

\*家庭との連携

取組後に取った運動アンケートの「だれと運動をしていますか」という質問に対して、どの学年でも「家族と一緒に運動をする」「その他（兄弟と、一人で）」の回答が3割を超えていた。運動だんごを家庭で取り組むよう定期的に促したことや、学校から運動だよりを発行したことで、運動に関心を持つようになった家庭が一定数いたといえる。

だれと（どんな）運動をしていますか。	
友達と遊ぶ	138
習い事	137
家族と一緒に	90
その他	53

児童の感想から

- ・コロナで外で運動ができなかったから、家でもできる運動があってよかった。
- ・いっぱい家族と遊べてうれしかったし、楽しかった。
- ・リズムに合わせて体操をすると気持ちがよかった。
- ・ブリッジで歩いたので、体がやわらかくなった。
- ・家族と一緒に取り組むことで家族との会話が増えた。



4 課題・今後の取組に向けて

～その1 家庭で増える「運動に関する話題」～

通信を定期的に発行したり新体力テストの結果を配布したりして、体力の向上や運動習慣の定着に関する情報発信をしっかりとしていきたい。また、保護者が集まる場面（懇談会、PTA 総会など）で運動に関する啓発を行ったりすることで、学校だけでなく、家庭においても運動に興味を持ち、実践することができるのではないかと考える。

～その2 やってナットク！運動のよさを実感～

家庭での生活時間に運動を取り入れるための手掛かりとしての頑張りカードについては、興味をもって取り組むことができたが、カードが出ている期間にとどまってしまう。運動を自ら継続する習慣化へと繋げるためには、運動が楽しいということに加え、運動の良さを実感できる手立てが必要となる。そのためには引き続き、運動の良さや効果を伝えていき、同時に自身の体力を知る機会を設定していくことが効果的であると思われる。

学校、家庭、地域を  
目指し、連携  
し、力をあ  
げ、子ども  
の成長を  
支えたい。

